

## ▲▼▲第58回クリエイティブサロン(2019年 3月 16日)開催報告▲▼▲

## 第1部講演会：「父、中山正和の思い出」

講師：渡辺秋津氏・渡辺勝利氏（中山正和先生ご息女）（元日本工営コンサルタント事業部主任研究員）



今回登壇いただいたのは、創造工学研究所所長、評論家、日本創造学会創設メンバーでNM法の開発者だった、故中山正和先生のご長女である渡辺秋津氏とそこご主人で渡辺勝利氏。

講演概要として「父、中山正和が亡くなるまで一緒に暮らしていた思い出」と題して

・NM法を確立した頃の父・父と一緒に仕事をした人からの父のエピソード・夫が父から教えて貰ったこと・年代別に出版した本をご紹介等、書物や残された記述からは知りえない、身内だからこそその貴重なお話をいただいた。中でも心に残ったのは、サラリーマン（電電公社）時代、研究者としての破天荒なエピソードや、ヤマハ楽器を1年で退職し、大和技術研究所で自主研究や企業の委託研究をやるものうまいく、ひたすらチューリップの絵を描き続け、1962年頃、忽然と企業研修の講師として身を立て、NM法を創造し、指導先企業においてスーパーヒット商品を生み出し、1995年創造工学研究所を解散するまで58冊もの書籍を上梓し、その半数が重版となったこと。代表作として『発想の論理』25版、「創造思考の技術」21版、『創造性開発の訓練』『知恵の構造』11版、『創造工学的手法』『カンの構造』10版など次々とロングセラーを生み出していった。

また、娘さんへの心温まる愛情教育や同居していた娘婿どのが、講師として壁にぶつかった時「落語を聞きに行きなさい」と深い気づきをアドバイスするなど公私にわたり、ヒトを育て、勇気づける達人であったことがうかがえた。講演を聞いて最も印象に残ったのが、実の娘さんである秋津さんの「父、中山正和はハンサムでおおらか、大酒のみでオープンで、本当にいい男でした」と語る表情が本当にうれしそうだったこと。当方も、現世で終止符を打ち、クラウド上に住処を替えた後、実の娘にそう言われたいものだと思底思った。

（記事：豊田貞光）

## 第2部講演会：「オープンファクトリーによる知識移転ー伝統産地のイノベーション」

講師：中丸山一芳氏（東海学園大学准教授）



第58回クリエイティブサロンにて知識創造や知識移転を鍵概念に、イノベーションを研究している立場から近年注目を集めている「オープンファクトリー」に関して講演させていただきました。「オープンファクトリー」は全国20か所以上の産地で開催されているイベントです。工場や工房などにおいて職人やモノづくりに従事する人々が、普段は公開していないモノをつくりだしていく複数の現場を一定期間公開し、それを来場者に体験してもらう取り組みです。代表的なものは新潟県燕三条地域の「工場の祭典」です。この祭典は、域外の若者やクリエイターを惹きつけるピンクストライプの印象的なグラフィックに象徴される取り組みで、産地の活性化と優れたデザインを理由にジャーマン・デザイン・アワード2019で受賞したほか著名な国内外のデザイン賞を受賞しています。さらに、ミラノサローネへの招待や、ジャパン・ハウス・ロンドンでの展示などを通じてこのオープンファクトリーは紹介されており、海外から燕三条地域の職人技が注目されるきっかけとなりました。そのことから、ロイヤル・カレッジ・オブ・アートの学生が燕三条地域を訪れるなどクリエイターやアーティストと職人の交流がはじまっています。さらに、国内では燕三条地域の「工場の祭典」の見学をきっかけに、福井県鯖江市を中心とした地域で「RENEW」と題した工芸を中心とするオープンファクトリーのイベントが開催されています。新潟県内でも十日町市の着物産地、五泉市のニット産地でオープンファクトリーが開催されはじめており、後継者問題などの同じ課題を有している産地と産地がオープンファクトリーを通じて交流し、知識移転や知識創造をおこなっているのです。普段は見せることのない工場や職人の技をあえて公開し、来場者と職人が直接交流することが、産地の中小企業に新たな知識移転を生んだり、技能承継者を発掘したり、異業種とのコラボレーションを実現したりするのです。このイベントと行政の関係性や、資金の調達や組織のマネジメントなどについてたくさんのご質問をいただきました。貴重な議論の機会をありがとうございました。

（記事：丸山一芳）